

活動プログラム

団体名（NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん）

1. 事業内容

<input type="checkbox"/> 子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
<input type="checkbox"/> 不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
<input type="checkbox"/> 自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援に関する活動

※複数選択可

2. 活動プログラム名

「 企業との連携による“父親の子育て応援プログラム”普及事業 」

3. 目標（ねらい）

子育て中の父親自身や職場の仲間が、父親が子育てに参画することによって、子どもの成長や父親自身の親としての成長に良い影響があることを知る。また、学びを通して子どもの発達を理解し、子育てが楽しいと感じられるようになる。

4. 活動計画 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
第1回	<p>★目標： 子どもの自己肯定感や非認知能力を育むためのかわり方を学び、親として子育てに携わることの喜びを感じたり、自信がもてるよう支援する。そして夫婦で協力しながら子育てしていく大切さを感じられるようめざす。</p> <p>企業側においても、社員が学び合える環境をつくることによって、社員自身の気持ちが高まり、社会貢献やチームワーク向上へつながることを体感できるきっかけをめざす。</p> <p>◎活動内容：岡山スイキュウ株式会社でのプログラム実施 (父親の育児参画+自己肯定感+非認知能力)</p> <p>◎対象：岡山スイキュウ株式会社社員（子育て中の父親や母親など）</p> <p>◎参加人数：12名（男性8名、女性4名）</p> <p>◎スタッフ数：5名</p> <p>◎会場：岡山スイキュウ株式会社 本社会議室 岡山市南区泉田371-1</p>	<p>◆自己肯定感や非認知能力などの学びから、家庭の子どもとのかわり方をふりかえり、自ら子育てにかかわろうとする意欲が高まっている。また、その具体的な実践方法を考える機会になっている。(事後アンケート)</p> <p>◆職場で子育て講座を受講することで、同僚や先輩に子育てについて相談ができることを実感している。また、職場が子育てに理解がある喜びを感じることができている。 (行動観察・事後アンケート)</p>

<p>第 2 回</p>	<p>★目標： 子どもの自己肯定感や非認知能力を育むためのかかわり方を学び、親として子育てに携わることの喜びを感じたり、自信がもてるよう支援する。そして夫婦で協力しながら子育てしていく大切さを感じられるようめざす。 企業側においても、社員が学び合える環境をつくることによって、社員自身の気持ちが高まり、社会貢献やチームワーク向上へつながることを体感できるきっかけをめざす。</p> <p>◎活動内容：株式会社システムズナカシマ岡山支店でのプログラム実施（父親の育児参画＋自己肯定感＋非認知能力）</p> <p>◎対象：株式会社システムズナカシマ社員（子育て中の父親・母親など）</p> <p>◎参加人数：8名（男性5名、女性3名）</p> <p>◎スタッフ数：5名</p> <p>◎会場：株式会社システムズナカシマ岡山支店 会議室 岡山市北区中島田町2丁目3-19</p>	<p>◆自己肯定感や非認知能力などの学びから、それらが子育てにおいて与える良さや重要性を知ることができ、我が子とかかわる具体的な実践方法を考える機会となっている。 （事後アンケート）</p> <p>◆働いていると平日開催の子育てを学ぶ機会を受講することが難しい中、職場で子育て講座を受講できることをよかったと感じられている。 （事後アンケート）</p>
<p>第 3 回</p>	<p>★目標： 2回のプログラム実施の様子・効果、参加者の声と合わせて、父親の子育て参画が子どもの健やかな成長につながることや企業で子育て講座を受講された生の声などをまとめる。一度だけの実施で終わらないよう企業連携をし、働く父親・母親など子育て世代の大人対象の学びプログラムの普及をめざす。</p> <p>◎活動内容：父親など子育て世代の大人向けプログラムの内容やその効果などをまとめた資料を作成し、県内の企業をはじめ、関係機関に広く配布する</p>	<p>◆作成した資料を、今回開催させていただいた2社をはじめ、おかやま子育て応援宣言企業等に配布することで、企業として、父親支援の重要性に目を向け、関心を持つことができ、実践につながっていく。（行動観察）</p>

5. 展 開

回 時間	内 容	準 備 物	留 意 点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1・2回】 5 分	【導 入】 グループづくり（基本4人） カメラの許可 ○はじまりのあいさつ ○本日のテーマの確認 ○団体の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・当日レジュメ ・ワークシート ・20周年あゆみ ・ひろば通信、情報 ・アンケート ・名札 ・カメラ ・パソコン ・プロジェクター ・スクリーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスした雰囲気づくり ・各部署から集まった方同士の交流促進 ・自然な会話から参加者の情報収集 	
40分	【活 動】 ○親性脳、育休中の過ごし方 ○ワーク「自己肯定感」 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで自己紹介、アイスブレイク（4分） ・自分と子どもの長所・短所を書く（3分） ・長所について講話（2分） <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになって短所を長所に言い換える ・終わったペアは感想を話合う ・やってみた感想又は内容を全体共有する ・リフレーミングの説明（4分） ・我が子のリフレーミング（3分） ・ペアで共有しその後感想を話す（3分） ・Fからコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 ・ワークシート①（長所、短所） ・ワークシート②表（リフレーミング） ・ワークシート②裏（リフレーミング） 	<ul style="list-style-type: none"> ・データに基づき親性脳を解説 ・改正育児・介護休業法の施行より国も男性の育児参画を応援している ・書ける範囲の内容でよいことを伝える ・ペアのやりとりのサポート観察をし、必要に応じて関わる。 ・考え方の習慣にふれる。 ・発言して頂けそうな内容の方をまわりながらリサーチする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆男性も女性も、子どもに関わることで親としての意識や能力が高まっていくことを理解している。 (事後アンケート) ◆子どもだけでなく親自身も自分のいいところを認め合う喜びを体感できている。 (行動観察) ◆言葉で伝え合うことでリフレーミングすることの意義を体感している。 (行動観察・事後アンケート) ◆体感したことで今後取り入れたいと感じられている。 (事後アンケート)

	<p>○講話 (23分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の若者の現状 ・自己肯定感とは? ・心の土台の図 ・自己肯定感が育まれるには? ・虐待、いい子、HSC、甘え ・非認知能力について 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 (自己肯定感) ・資料 (HSC) (非認知能力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料とあわせて2つの図を用いながら説明する ・非認知能力と自己肯定感の関係性が分かるように説明 	<p>◆自己肯定感と非認知能力の内容を知る機会となり、どちらも子育てや心の土台づくりにおいて重要であると理解している、意識への変化がみられる。 (行動観察・事後アンケート)</p>
15分	<p>【振り返り】</p> <p>○子どもへのかかわり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日からやってみようと思う具体的な事をシートに書く (3分) ・グループ内で発表しあう (4分) ・今日の感想を数人にインタビュー <p>OFから最後のまとめ</p> <p>○学ぶことの意義</p> <p>○企業出前講座のご案内</p> <p>○アンケート記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③ ・企業出前講座チラシ ・アンケート用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章でも箇条書きでもよいことを伝える ・全体でも内容が共有できるようにする。 ・日頃から頑張られている参加者への労いの言葉を伝える 	<p>◆我が子へのかかわり方についてふりかえり、実践してみたいことを具体的に考える機会となっている。 (事後アンケート)</p> <p>◆今後も子育て講座を受講したいという気持ちが生まれている。 (事後アンケート)</p> <p>◆職場で子育て講座を受講できたことをよかったと感じている。 (事後アンケート)</p> <p>◆チームワーク向上の点からも新任社員教育に取り入れたいと感じている。 (事後アンケート)</p>

<p>【第3回】</p>	<p>★プログラム実施の様子・効果、参加者の声と合わせて、企業との連携による父親対象の学びプログラムを普及する</p> <p>○活動</p> <p>父親向けプログラムの内容やその効果などをまとめた資料を作成し、県内の企業をはじめ、関係機関に広く配布する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料作成 ・おかやま応援宣言企業、アドバンス企業リスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨や効果を説明できる分かり易い資料を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆企業として家庭教育支援に関心を持ち実践に向けて検討する。 (行動観察)
--------------	--	---	--	--